

製品名: EphA2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10515**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	105kDa

抗原情報

遺伝子名	EPHA2
別名	EPHA2; ECK; Ephrin type-A receptor 2; Epithelial cell kinase; Tyrosine-protein kinase receptor ECK
遺伝子 ID	1969.0
SwissProt ID	P29317
免疫原	抗血清はヒト EPHA2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 131-180

背景

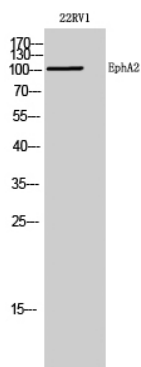
この遺伝子は、タンパク質チロシンキナーゼファミリーのエフリン受容体サブファミリーに属します。EPH および EPH 関連受容体

は、特に神経系において、発達過程の媒介に関与していることが示唆されています。EPHサブファミリーの受容体は、典型的には単一のキナーゼドメインと、システインリッチドメインおよび2つのフィブロネクチンタイプIIIリピートを含む細胞外領域を有します。エフリン受容体は、細胞外ドメイン配列の類似性と、エフリンAおよびエフリンBリガンドへの結合親和性に基づいて、2つのグループに分類されます。この遺伝子は、エフリンAリガンドに結合するタンパク質をコードします。この遺伝子の変異は、遺伝的に関連する特定の白内障疾患の原因となります。[RefSeq提供、2010年5月],触媒活性:ATP + a [タンパク質]-L-チロシン = ADP + a [タンパク質]-L-チロシンリン酸。機能:エフリンAファミリーのメンバーの受容体。エフリンA1、-A3、-A4、および-A5に結合します。類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Tyrタンパク質キナーゼファミリー。エフリン受容体サブファミリー。類似性:1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。類似性:1つのSAM(無菌アルファモチーフ)ドメインを含みます。類似性:2つのフィブロネクチンIII型ドメインを含みます。サブユニット:SLAと相互作用します(類似性による)。INPPL1/SHIP2と相互作用します。組織特異性:皮膚、腸、肺、卵巣など、上皮細胞の割合が高い組織で最も高く発現します。

研究分野

軸索ガイダンス;

画像データ



1: 1000希釈のEphA2ポリクローナル抗体を用いた22RV1細胞のウェスタンブロット解析